

僕とお米

学園の森（義一）

六年

遠藤 えんどう

弘樹 ひろき

ニ〇〇七年六月一日は、僕が初めてお米を
 口にした記念すべき日です。生後五ヶ月の赤
 ちゃんである僕が口にしたのは、水十に対し
 て、お米一の割合で作る、十倍がゆ」とい
 水分の多いさらさらのおかゆの離乳食です。
 正直、あまりおいしそうに思えません。母
 によると、ここにこして喜んで食べていたそ
 うです。あれから十一年間、お米は僕の食生

活にוותて欠かせない大事な食べ物となつて
 います。

僕が産まれる数ヶ月前に亡くなつた曾祖父
 は米農家でした。曾祖父が作つたおいしいお
 米を食べるこゝができなかつたこと、米作り
 の話を聞きなかつたことが残念でした。そ
 の代わりに昔の米作りの様子を祖母に聞くこ
 とができました。

祖母が僕と同じ年頃だつた昭和三十年代は、
 今のよゝな便利な大型の機械がなく、ほとん

びが手作業で、特に大変だったのが田植えと
 稲刈りだそうですね。猫の手も借りたいほどの
 忙しさのため、まだ子供だった祖母も手伝い
 をし、腰を曲げての農作業はとてもつらかつ
 たそうですね。僕だったら、最初は面白かつ
 やるけれど、そのうち疲れて嫌になつてしま
 うかもしれません。今では、田おこしや田植
 え、稲刈りなどは機械化が進み、将来、無人
 化になるのではないかと言われています。大
 変な思いもして米作りもして、た曾祖父が、
 このことを知ったら、世の中変わったものだ
 かと驚くに違ひありません。
 最近、ニュースで異常気象による豪雨や台
 風の影響により、稲が倒れたり、田んぼが冠
 水してしまつた映像を目にすることがありま
 す。その度に、今まで一生懸命に稲を育てて
 きた農家の方のことを思うと、とてもつらい
 気持ちになります。

一九八六年八月四日。台風十号による豪雨
 で、小貝川が氾濫しました。農機具の販売会

社に勤めていた祖父は、お客さんの様子を見
 に現場にかけつけ、ひびい状況を目の当たりに
 にしました。建物は床上浸水、稲穂は水没し
 て全く見え、近くの養豚場の豚が田んぼを
 泳いでいたという話を聞き、僕はとても驚き
 ました。祖父は機械を高台へ移動したり、モ
 ーターの交換やエンジンの修理をしたりと何
 日間も機械を直して回ったそうです。インバ
 インやトラクターはしても高価で、農家の方
 にとっては稲作に欠かせないとても大事なも
 のです。祖父は、今年の収穫は駄目になって
 しまったけれど、来年また頑張って米作りを
 してくれるようにという願いを込めてお手伝
 いをしたのだと思います。

風にゆられて黄金色に輝いている稲穂を見
 ると、つやつやの新米がとても待ち遠しいで
 す。毎日何気なく食べているお米ですか、こ
 れからは、農家の人の苦労や、祖父のよう
 に米作りを支える様々な人の思いを考えながら

大切にいたただきたいと思えます。